

# 府立藤井寺支援学校



テーマ：「主体的・対話的で深い学び」「観点別学習状況の評価」

## 概要

全体会（オンデマンド）で、学習指導要領を踏まえた重度重複障がいのある子どもの教科指導のポイントなどについて確認しました。研究授業は、中学部生徒5名（自立活動を主とする教育課程）を対象とし、国語科（みるきく）の授業を行いました。研究協議では、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を見取る方法や観点別学習状況の評価方法について考え、「活動分析表」を用いて、生徒の学習を評価する方法を共有し、指導方法等の改善につなげるよう提案しました。

## 実施スケジュール

### Research

6月19日（月） 打合せ

### Vision

9月25日（月）～  
10月6日（金） 全体会（オンデマンド配信）

### Plan

11月～ 学習指導案の作成・検討

### Do

12月21日（木） 事前授業・授業後の協議  
1月19日（金） 研究授業

### Check & Act

2月14日（水） 研究協議  
3月12日（火）～ 振り返り（オンデマンド配信）

## 全体会

【オンデマンド配信】9月25日（月）～10月6日（金）

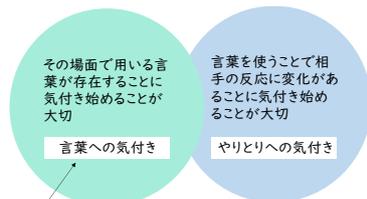
「学習指導要領と重度重複障がいのある子どもの教科指導のポイントなどについて」

支援教育推進室指導主事より（以下資料より抜粋）

学習指導要領のポイントでは、「育成すべき資質・能力」、「主体的・対話的で深い学びの実現」について講義しました。学習指導要領に基づき、めざすべき子どもの姿を明確にして教育活動を行うことの重要性を共有しました。また、「国語」「算数」（小学部1段階）等の教科を例に、1段階における児童・生徒の姿、指導内容のポイント、目標と内容等について説明をしました。

### 国語（小学部1段階）における児童・生徒の姿

身近な人や興味や関心のある物事との関わりを繰り返しながら



言語的コミュニケーションが難しく、反応が微かな子どもの指導においてポイントとなる内容

### 国語・算数の指導内容を考える上でのポイント

注意を向けること  
気付くこと 「視覚」だけでなく、「触覚」をはじめとする諸感覚を使うことで注意を向けたり、気付いたりできるように指導内容を工夫する。

◇ 指導内容を考える際にヒントとなる感覚例



例えば

固い・柔らかい  
振動する・しない

例えば

様々な人の声  
大きさ、リズム

- 好きな柔らかさのボールに触れようとする。
- 振動するボールを使って「ある」「ない」に気付く。
- 身近な人（家族、先生、友達）のあいさつの言葉に気付く。
- 様々なリズムの言葉に気付く。

様々な感覚を通して気付くことができるよう活動の幅を広げる

